

# 花弁園芸新聞

## 創美流 涼風七夕いけばな展 盛夏の花々の美しさ 無観客、動画配信で



創美流華道会館大床にいけられた渡邊家元の大作④と渡邊副家元作品

創流271年を迎える創美流華道では「第66回涼風七夕いけばな展 旧七夕會」を7月25日、東京都東久留米市の創美流華道会館で開催した。創美流華道家元十五世渡邊華靖氏主宰、創美華道会主催。後援は東久留米市、花卉園芸新聞社。流では緊急事態宣言下のため2度目の無観客華道展として1日開催と

し、後日動画配信を行うことを決定。戦後から七夕送りの願いを込め開催し伝統を伝えてきた同展開催に、家元は「今の歳も集ふ事なきみまつりにふたとせぶりの面晤祈らむ」と、かなうことができない無念さ、新型コロナウイルス(コロナ)の拡大の中、昭和20年の議会開院式勅語を読み返し「今の幾多の苦難を克服し政府議員



脩静庵華鴻宗匠記念賞 菅野春祐氏作品



花卉園芸新聞社賞 赤見静玲さんと作品

添えた家元作品、その隣には渡邊華璋副家元がピラカンサ、トキワマンサク、デンファレ、アジサイ、ピンクのクルクマシヤローム等による新生花をいけ、家元・副家元と紅白の作品を披露。出品からは、鴻雲齋宗興宗匠記念賞に小澤窓枝氏、菅野春祐氏は芭蕉(枯れ)に着色枝垂桑と東北八重ひまわりに青もみじで、盛夏の美しさを捉えた作品で脩静庵華鴻宗匠記念賞を、脩静庵華溪宗匠記念賞には杉本彩鳳氏がそれぞれ受賞。学生子供からは花卉園芸新聞社賞を赤見静玲さんが受賞。斑入りの紫陽花に八重ピンクのトルコギキョウ、デンファレ(紅白)を筒型の花器に投入し、難度の高い作品に挑戦し高評価を得ての受賞。「八重のトルコギキョウの位置が決まりうまくなりました」と喜びを語った。家元からは「子供教室と言いつながら小学校から10年、20年、社会人になるまで努力し、結果が出てきたのではないかと思えます。半分以上お名前を取り、難しい花材も上手に頑張っていています。受け継がれてきたのが道。7割はコロナ疲れをしているといいますが花道を伝えることの大切さを考える機会としてもらえればよいと思えます」と講評。なお、昨年予定していた創流270周年事業はコロナ収束の見通しがつかず中止となり、記念誌として「創美流創流270年記念作品集 春山多勝事」を発行。華道継承に歩み続ける決意が作品とともにオールカラーで綴られている。▼ <http://www.sobiryu.jp/>